

大飯3号機の原子炉補助建屋

汚染水の水たまり

関西電力は二日、大飯原子炉3号機（おおい町）の原子炉補助建屋で、微量の放射性物質を含む汚染水の水たまりが発生していたと発表した。社員の被ばくや環境への影響はないとしている。

関電によると九月十八日、作業員が建屋内の床二カ所で計約百八十リットルの水たまりを発見し紙タオルで拭き取った。焼却処分する。

関電によると、耐震化工

事で空になっていた冷却水をためるタンクに水を満たす際、内部の窒素を別タンクに排気した。大量の窒素の流入で排気先のタンク内の圧力が上昇し、水が逆流。床面の排水口からあふれたという。排気先のタンクは放射性物質を含む水の配管の点検で発生する汚染水も貯蔵していた。

関電は対策として、窒素を排気する時は別の弁を用いる運用に変更する。

（平井孝明）